

平成30年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
機械工学インターンシップコース レポート⑥
「Building my confidence」

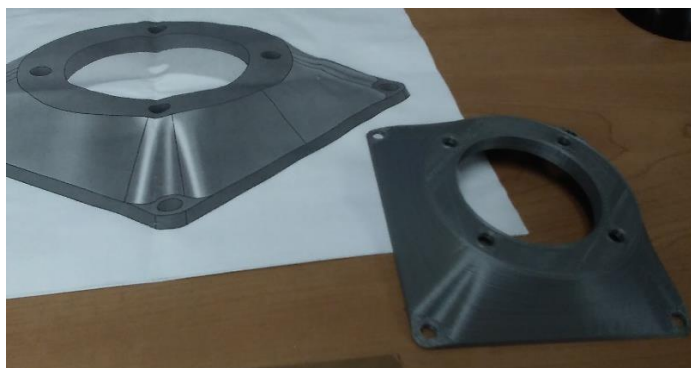
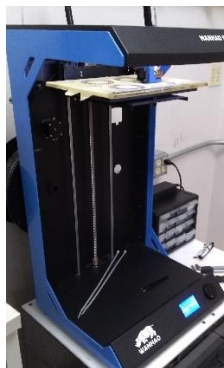
山本 達也

・インターンシップ編

気が付けば半年もアメリカで生活を送っていることに気が付きました。ここ最近感じることは英語がずいぶん話せるようになってきたという事です。通じないことはまだまだありますが違う言い回しで表現することができるようになりました。また、聞き取れることもその後訳して理解するまでの時間も早くなりました。そのためジョークを笑うだけでなく返すくらいの余裕が持てるようになってきました。そういった余裕ができてきたため会社の中でいろいろなことを考えることができました。日本の会社との違いや日本の常識との違いなどを考え、アメリカの会社ではどのように仕事に取り組むか考え行動しました。

具体的なインターンシップの内容ですが、今月中に終わると思っていたプロジェクトのオイル量のセンサが動作しないことがわかりました。この時、大学で学んだことが非常に役に立ちました。配線をたどってどこが機能していないのか考えて推測しそのことを報告し、次にどうすべきか提案しました。幸いにも推測は正しかったようで、後日、その部分を変更し正常に動作させることができました。

プロジェクトがひと段落したため、提案をしました。オイル量のセンサの土台について思うところがあり、自分で設計しなおしてもよいか聞き、会社にある3Dプリンタを使い、こういったものを作ってよいかと尋ねました。仕事をもらうだけでなく自発的に行動することが必要だと感じたからです。ブライアン氏がオッケーサインを出したので試作品を作り、動作チェックをして量産を開始しました。



左から 3D プリンタ、試作品、動作チェック中のオイル量センサ

・フィンドレー大学での生活編

年末年始は冬休みを利用して、アメリカ旅行へ行きました。この旅行の目的は英語に対して自信をつける事です。ワシントンDCまでレンタカーを借りました。レンタカーを借りることや保険を確認することは大変でしたが為になりました。そして、夢だったモーテルに泊まりました。映画などでたびたび出てくるモーテルにどうしても行きたかったのです。正直、機能や衛生面では日本と比べてあまり良いとは言えませんでした。まずドアが開かないことから始まり、様々なトラブルに遭いました。ただこの旅の目的を考えるととても良いことでした。

受付の人に質問をして、解決していきました。チェックアウトの際に飲んだロビーのコーヒーでお腹を壊した事を除けばすべてコミュニケーションで解決しました。

モーテルを経由しつつワシントンDCに到着しました。美術に興味があったのでホワイトハウスなどの観光名所を回りつつ美術館巡りなどをしました。初日以外は節約とコミュニケーションのため、インターナショナルユースホステルに泊まりました。ホステルは相部屋が基本で、その時は10人部屋に泊まりました。二段ベッドの上の人と友達になり、次の日に一緒にご飯を食べました。

ユースホステル二日目はクリスマスイブでした。そのため、クリスマスイベントが開かれており、泊まっている人々でピザパーティをしました。会話の輪の中に入るのは勇気がいりましたが、他愛のない事を話したりするのは楽しかったです。色々な国から色々な人が来ていました。ネイティブの速度で話す人、合わせてくれる人、言葉の間違いを指摘する人としらない人、オージ訛りで話す人やインド訛りの英語を話す人、色々な人に会って話をしました。幸いにも、訛りに関しては慣れるとだんだん理解できるようになり意思疎通できました。そこで気づいたことは、英語の発音や文法が少し違っても気にせず皆話しているという事、言語は手段にすぎず仲良くなるため、相手を知るために話しているという事を実感しました。ちなみに、アレルギーでピザが食べられない方と最も多く話をしました。日本のおせんべいやお茶をお勧めしました。草加せんべいの話が気に入ったそうで今後、試してみるそうです。

その後、フィラデルフィアへ行きました。映画ロッキーの舞台です。有名なシーンと同じポーズで写真を撮ってもらいました。観光地は親切な人が多いです。Philly cheesesteak という、牛丼の具とチーズをパンで挟んだようなサンドイッチが名物でした。三日滞在しましたがこの味にはまって、3食これを食べていました。この都市でもユースホステルへ行きました。ほかの旅行客が日本のテレビゲームで遊んでいたのが話しかけて一緒に遊びました。彼らはオーストラリアから友達と一緒に来たそうです。部屋に戻る前、悲劇が起きました。スマホをトイレに落としてしまいました。取り出しましたが使えませんでした。また、使いたいと思えないので新しいものを買うために夜のフィラデルフィアを駆け巡りました。スマホショップを探すためのスマホがありません。ともかく歩きながら探していると若い男の人が話しかけてきました。「大丈夫ですか、どうかしましたか」と。スマホを壊してしまった事を話すとリペアショップやストアの場所を教えてくださいました。彼はボランティア活動をしている最中で街ゆく人に寄付を求めています。こういった他者を思いやる事の出来る人になりたいと思いました。

その夜、無事に新しいスマホを手にした私はユースホステルに戻りました。そこには、困っているアジア人の若い男性がいました。「どうしたのですか、何か問題がありますか」と聞くと部屋へ行く方法が分からないそうで、幸いにも同じ部屋だったので道案内をしました。

次の日トイレに部屋のカードキーが置いてありました。誰かのものかもしれませんが、部屋に戻る途中にバックパックをひっくり返して何かを探している人がいました。もしかしたら鍵を探しているのではと思い話しかけました。推測の通りでした。このフィラデルフィアでの経験で私は数多くの学びを得ました。英語が使えることで人に助けてもらえること、そして助けられることです。

最後にニューヨークへ行きました。英語がある程度話せることに調子に乗った私は自由の女神行きのフェリーで40ドルを取られました。旅の後、アメリカ人の友人が無料のフェリーもあったと教えてくれました。チケット売りの人とたくさん話をしたので、高い授業料だったと思うことにしました。

大晦日にはセントラルスクエアで行われるカウントダウンイベントに行きました。たくさんの方が世界中から押し寄せているようで英語よりほかの言語を話している人のほうが多く感じられました。日本人もちらほらいました。新年を皆で祝いました。その後、フィンドレーに戻りインターンシップに行きました。

この旅の中でたくさんのトラブルに遭いましたがそれを解決することで自分自身の語学力やコミュニケーション能力に対して自信をつける事ができました。また、旅の中で出会った人々のように人を助けられるような人になりたいと思いました。もし、冬休みを家で過ごしていたとしたらこういった機会を得ることはできなかったと思います。アドバイスをくださった方々やこの旅行を強く勧めてくださったフィンドレー大学の留学アドバイザーである川村先生に深く感謝しています。

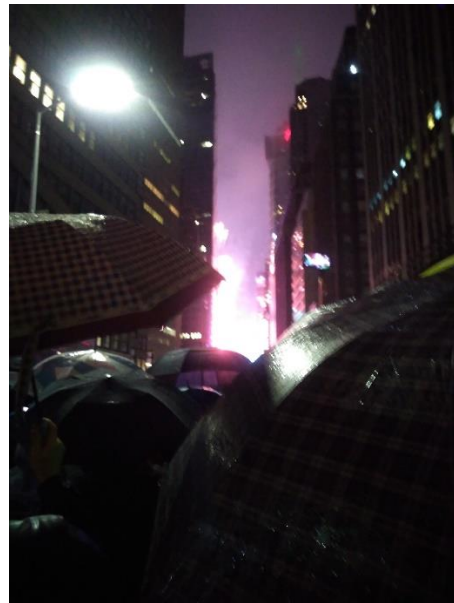
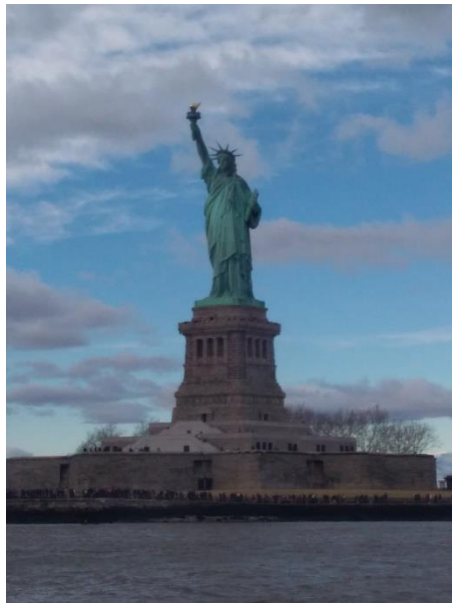
アメリカ中西部を中心に記録的大寒波に見舞われ、フィンドレーでは氷点下を下回る日々が続きますが残り少ない時間を有意義に使っていきたいと思います。



左から財務省の建物、ワシントンDCのユースホステルにて



左から Philly cheesesteak 屋、ロッキーロード、ロッキーの等身大フィギュア



左から自由の女神、ニューイヤーイベント（セントラルスクエア）